

I 社会実験の概要

1 事業目的

中心市街地のウォークアブルなまちづくりに向け、東武宇都宮駅と大通りの交通結節点である東武馬車道通りにおいて、居心地の良い空間づくりを行い、その効果や実現性を検証するための社会実験(BASHAMICHI YARD)を実施する。

2 実施主体

宇都宮市及び宇都宮大学

3 実施場所

東武馬車道通り 北進車道の一部(宇都宮市江野町地内)

4 実施期間

令和4年3月24日(木)～27日(日)

5 実施内容

(1) 交通規制

- 東武馬車道通りの北進車道の一部について終日車両通行止め
- 交通規制を行うにあたり、実施の概ね2週間前に案内看板を設置

(2) 空間の設え

- 車道に人工芝を敷設し、気軽に立ち寄れる空間を創出
- 歩行者が自由に座れるよう、木製ボックスを組み合わせたベンチを設置
- 木陰を確保することにより、日中も滞在しやすい空間を創出
- 飲食、読書、休憩など空間の使い方を利用者に明示した看板を設置

(3) 調査・検証

- 利用者や周辺店舗へのアンケートを実施
- 利用者の行動調査を実施

(4) 安全対策

- 警備のため人員を終日常駐し、9:00-16:00は主催者側で交通誘導を行い、16:00-翌朝9:00は警備員を配置
- 車道との境目となる部分には、木製の境界壁を設置し、利用者の車道への飛び出しを防止
- 人と人との間隔を十分に設けるよう呼びかけるなど、感染防止対策の周知・徹底

6 検証項目

東武馬車道通りの道路空間を活用し、滞在できる空間を創出することにより変化する利用者の行動や道路空間活用に関する印象、沿道店舗の売上げなどへの影響等を確認し、「人中心」の道路空間を構築していく上での参考とする。



利用者に使い方を明示した看板

II 実施体制・関係者

1 実施体制

(1) 全体統括

宇都宮市

(2) 効果の研究・検証等(アクティビティ調査、ヒアリング調査等)

国立大学法人 宇都宮大学

助教 藤原 紀沙(地域デザイン科学部・建築都市デザイン学科)

講師 遠藤 康一(同上)

教授 長谷川 万由美(共同教育学部・地域創生科学研究科)

特任助教 坂本 文子(地域創成推進機構・社会共創促進センター)

(3) 空間設計・ランドスケープ・各種デザイン(空間/場所づくり)

株式会社ビルスタジオ 代表取締役 塩田 大成

III 社会実験調査結果

1 歩行者の利用結果

(1) 利用時間帯

- 社会実験期間の日中(9:00～16:00)において、各日100人～200人程度の休憩や飲食での利用が見られた。
- 日中は、11:00頃から利用者が増え、15:00頃を過ぎると少なくなる。特に、12:00～14:00頃に、歩行者を含めて利用者が増え、女性や親子連れなどの利用が多く見られた。
- 夜間は、少人数で短時間滞在している様子が見られた。

(2) 利用時間

- 利用時間は、5分以上が約4割あり、普段何気なく通り過ぎる道路空間における行動の変容が見られた。
- テイクアウトメニューの利用者やワークショップへの参加者は、利用時間が長くなる傾向にあった。

(3) 年代・集団類型

- 幅広い世代での利用があったが、特に30代までの利用者が多い傾向にある。
- 休日は家族での利用が多く、特に10歳未満の子育て世代の利用が多い。

(4) 活動

- 会話を中心にスマートフォンを見ながらくつろいだり、子どもたちが飛び跳ねて走り回ったり、昼食をとるなどの様々な活動が見られた一方で、試しに座ってすぐ立ち去る利用者も見られた。

(5) 利用者の社会実験に対する印象

- 社会実験に対する好意的な意見が多く、中には常設を望む声もあった。

2 空間の設えの評価

(1) ベンチ

- 斬新なデザインで通行人に興味を引く設えであったことや、周辺店舗を利用しなくても誰でも自由に座れたため、気軽に立ち寄る人が多く見られた一方で、座って良いのかとまどう利用者もいた。
- ベンチが階段状になっており、階段の踏板の役割もしていることから、足跡が付いてしまい、カジュアルな服装以上の方は座りにくい一面もあった。

(2) 人工芝

- 子どもが芝生に寝転ぶなど、休憩スペースを最大限楽しむことができた。

(3) 樹木

- 比較的過ごしやすい気候であったことや滞在時間が短いなどの要因から、木陰の有無は滞在に大きな影響を与えるものではなかった。

(4) 境界壁

- 車両の通過が気にならず安心して滞在できる空間を創出できたとともに、子どもの車道への飛び出し防止などの安全対策として一定効果があった。
- 一方で、境界壁の上に座ったり、ベンチから飛び乗る子どもがいたほか、境界壁越しに道路上で話をする人も見られたなど、仕様等に課題も生じた。

(5) 環境調査

- 天候により差異は見られたものの、温湿度、照度の測定結果は、快適に過ごせる範囲の値であったとともに、利用者アンケートでは、快適性、安全性、清潔性などについて多くの利用者から高い評価が得られた。



3 沿道店舗からの評価

(1) 売上等や周辺交通の影響

- ・ 売上等や来客については、少し増えた店舗もあったが、影響ない店舗が多かった。
- ・ 商品の配送などの荷捌きについては、不便と感じた店舗と影響がなかった店舗と双方あったが、やや不便と感じた店舗が多かった。

(2) 道路空間活用の方向性

ア 休憩スペース等設置の必要性

- ・ 車道部分を休憩スペース等に整備するなど恒常的に確保してほしいという意見もあったが、イベント的な車道の活用や現在の歩道空間内への休憩スペース等の設置などを望む意見も多かった。

イ 道路空間の使い方

- ・ イス、テーブル、ベンチの設置など「休憩スペースとして活用したい」、キッチンカーやコンテナハウスの設置など「商業スペースとしての利用したい」、宮の盆踊りなど「イベントスペースとしての使用したい」と、意見が分かれた。

(3) チャレンジしてみたい取組

- ・ テイクアウトメニューの企画やワークショップの実施、イベント活用などの取組に意欲的な店舗があった。

(4) 社会実験を通じた沿道店舗等の取組への波及

- ・ 社会実験期間に合わせ、商店街や沿道店舗による花壇の植え替えや鉢植えのワークショップの実施、利用者の感想を動画にしたSNSへの投稿などの独自の取組が見られた。



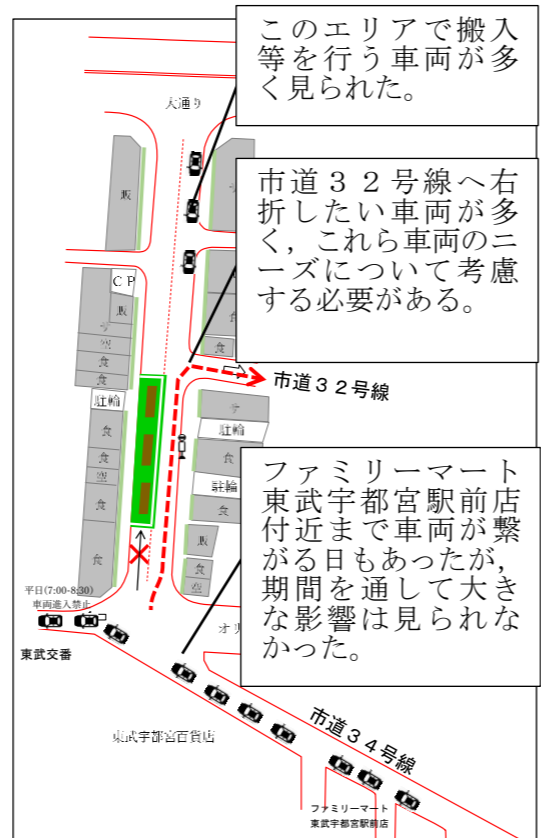
4 周辺交通への影響

(1) 通行車両

- ・ 東武宇都宮百貨店の開店時間頃に、東武交番前交差点からファミリーマート東武宇都宮駅前店付近まで車両が繋がる日もあったが、期間を通して大きな影響は見られなかった。
- ・ 市道34号線（東武宇都宮百貨店北側）から、東武馬車道通りを北進して市道32号線へ右折したい車両が多く見られ、該当車両は迂回誘導し社会実験には影響はなかったが、市道32号線へのニーズについて考慮する必要がある。

(2) 搬入等車両

- ・ 南進北側の路上を（JTB前付近）を使用し、搬入等を行う車両が多く、長時間停車する車両も見られた。中には、市道32号線入口付近、市道34号線西側に停車し、搬入等を行う車両も見られた。



IV 全体評価・課題等

1 評価

- ・ 通りに人工芝やベンチ等の滞在空間を設えることにより、多くの歩行者が立ち寄り、会話や飲食など様々な活動が見られたことから、居心地の良い空間づくりの有効性が確認できた。
- ・ 斬新なデザインで歩行者等の興味を引く設えであったことや、周辺店舗を利用しなくても誰でも自由に座れたため、より気軽に立ち寄れる要因に繋がったと思われる。

2 課題

(1) 施設の維持管理を考慮したベンチ等の設え

- ・ 社会実験を通して、歩行者等の滞在する姿が確認できたことから、今後は、管理者が常駐せず恒常的に道路空間を活用することを想定し、施設の維持管理を考慮したベンチ等の設えを検討する必要がある。

(2) 周辺交通や荷捌きスペース等を考慮したエリア設計

- ・ 一部の運転者や沿道店舗からは通行規制や荷捌きの不便さを訴える声もあったことから、周辺交通を考慮したエリア設計や荷捌きスペースの確保、ルール作りなどを検討する必要がある。

(3) 沿道店舗の参加促進

- ・ 道路空間を恒常的に有効活用していくためには、身近な空間の活用の担い手である沿道店舗にも関わっていただくことが重要であることから、担い手育成に向け、社会実験実施内容の検討段階から沿道店舗にも参加していただく必要がある。

V 今後の進め方

- ・ 今回の社会実験で居心地の良い空間を創出することは、歩行者が滞在する効果を確認でき、エリアの魅力向上に繋がる可能性があることと判明した。一方で、エリア設計や沿道店舗の参加促進などの課題もあることから、今回の社会実験の検証結果を踏まえながら、令和4年度においても社会実験を実施する。
- ・ 実施にあたっては、策定中の「(仮称)都心部まちづくりプラン」や、「プレイスメイキングうつつのみや」の検討状況と整合を図りながら、沿道店舗等とともに実施内容を検討していく。